

平成 25 年度 ITS セミナーが 開催された

ITS・新道路創生本部

中村 徹、黒沢 由佳

REPORT

1 はじめに

(一財)道路新産業開発機構 (HIDO) では、毎年、民間企業等の ITS に関わる人材育成支援、人材交流のため、セミナーを実施しています。平成 25 年度は、10 月に ITS 世界会議東京大会やその後の ITS 世界会議関連の報告会などがあり、例年 11 月に開催していた ITS セミナーを年明けの 1 月とし、昨年度のアンケートの結果から午前と午後の 1 日から午後のみの開催としました。今回のテーマは、「ITS 最新動向と自動運転」として、国土交通省と民間企業の講師に講演して頂きました。また HIDO 職員による ITS の基礎や最新動向についての報告を行いました。

日時：平成 25 年 1 月 23 日 (木)

場所：HIDO 会議室

対象：ITS に携わっている中堅職員

参加者：50 名

【講義】

① 『国内の ITS 施策動向』

国土交通省 道路局道路交通管理課
ITS 推進室 室長 (当時)

奥村康博 氏

② 『日産の自動運転の取組み』

日産自動車(株) 総合研究所
モビリティ・サービス研究所 主任研究員

寸田剛司 氏

③ 『自動運転 世界の動向』

(一財)道路新産業開発機構
ITS・新道路創生本部調査役 (当時)

岡村茂則 氏

④ 『ITS 研究で学んだことーITS に 取り組む皆さんへー』

(一財)道路新産業開発機構
本部長 (当時)

上田敏 氏

【討論会】

例年、講義後のテーマに関連した討論会は今回から無くなりました。

2 『国内の ITS 施策動向』

日本の ITS の今までの取り組み、プローブ情報、自動運転の状況、高度運転支援そして国際協調についてお話しいたしました。

日本の ITS の取り組みとして、日本の ITS の始まりから ETC、VICS の現状、ITS スポットそして ETC でも使われている技術を利用したプローブ情報の活用についてお話をいただきました。

今後の ITS として、国内外の自動運転の開発状況、国内で検討されている高度運転支援の取り組みについてお話をいただき、運転支援には道路側からの情報が重要であることがわかりま



奥村氏による講演

した。

最後に日本として取り組んでいる日米欧の国際協調についてお話をいただき、日米欧の三極で協力している「国際標準」、「評価ツールと方法」、「自動運転」についてお話をいただきました。

3 『日産の自動運転の取組み』

自動車会社としてのエネルギー、地球温暖化、渋滞、交通事故の車社会が抱える課題に対する課題解決へ向けた取組み、そして自動運転についてお話を頂きました。

地球温暖化としての電気自動車の開発や交通事故を削減するために車と車が通信して安全対策を行う方法、自動運転の取組みや研究開発状況を分かりやすく説明していただきました。

電気自動車は、ガソリン車よりも制御がしやすく、人間の能力を超えた操



寸田氏による講演

作も可能であることや、自動運転は技術や部品の開発によって単独走行は可能であるが、高速道路や一般道では課題が多いことについてお話しをいただきました。

4 『自動運転 世界の動向』

平成 25 年度の大きな話題として、自動運転の世界動向について当機構の職員から報告いたしました。

当機構では、世界で研究や実験されてきた自動運転技術、そして最近の自動運転技術の研究開発動向について平成 24 年度から調査を行ってきました。平成 25 年度は、ITS 世界会議や東京モーターショーなどの展示会において自動運転が注目された年であることから、当機構で調査した自動運転技術の動向を報告しました。

内容は、1940 年代から始まった自



岡村氏による講演

動運転の研究の歴史、日本で実験された自動運転の紹介、そして、近年の動向では日本の道路としての取り組みや欧米で実施された自動運転の実験について報告しました。

自動運転の研究や実証実験は米国では Google が主に、欧州では欧州全体のプロジェクトとして自動車会社や部品メーカーが様々な研究開発を行っている状況が報告されました。

5 『ITS 研究で学んだことーITS に取り組む皆さんへー』

当テーマは、昨年度の ITS セミナーのアンケートにおいて、ITS の基礎について知りたいというご意見がありましたので、当機構の職員から ITS の基礎や開発状況などについて、技術者として ITS にどの様に取り組むのか？という視点で経験談を踏まえて報告しました。

ITS の基礎では、日本が ITS を実施する上で、5 省庁で考えられた「ITS の全体構想」の紹介、その全体構想で描かれた ITS の 2000 年から 2010 年の動き、ITS9 つの開発分野と開発・展開の計画について報告しました。ITS の開発では、日本の ITS 技術の流れを VICS、ETC そして ITS スポットへと変化し、サービスごとの車載器から一体型車載器への流れについて説明がありました。ITS の開発では、



上田氏による講演

様々な世代の交流と人材育成が大切で、近年では日米欧のような国際的な関わりが重要であることがわかりました。

これからの ITS は、国際協調と世界のインフラ設備の流れを把握することが重要であり、そのためには国際標準の動向が欠かせないということもわかりました。

最後に、ITS 技術者向けに、豊かな社会を築くためには研究開発が欠かせないこと、物事を進めていく上では戦略を考えながら、確かな「コミュニケーション」と「アカウントビリティ」が大切という言葉がありました。

7 セミナー後のアンケート結果

(1) セミナー全体の感想

セミナー参加者にアンケート調査を行いました。セミナー全体の印象としては、約 85%の方が「良かった」と回答がありました。その他、自由意見として；

- ① 国の施策や企業の自動運転技術の講義が良かった。
- ② 行政や企業の最新情報を聞くことができて良かった。

(2) 開催時期について

多くの方から午後のみ開催が良いという意見が寄せられました。

(3) 興味深いテーマについて

参加者の半数以上の方が「日産の自動運転の取組み」に興味をもたれたようです。

(4) 今後の要望

ITS セミナーで取り上げて欲しい講義内容について下記のような意見が寄せられました。

- ① ITS の日本の今後の取り組み
- ② 道路課金（道路課金の技術動向）
- ③ 自動運転（各自動車会社の動向、最新情報のアップデートなど）
- ④ 東京オリンピックに向けた ITS 施策



ITS セミナーの風景

- ⑤ 世界の ITS 動向（欧州、米国、アジアの動向）
- ⑥ プローブ情報の活用

8 おわりに

今回のセミナーは、最新の ITS と ITS の基礎について講演していただきました。

平成 25 年度では、国内外で自動運転が大きな話題として取り上げられ、ITS の分野でも自動運転について注目されています。自動運転は自動車の単独システムだけでなく、道路からの情報も必要であり、今後 ITS は道路と車が結びつく路車間通信（協調システ

ム）が重要になっていくと思います。

ITS セミナーの開催に関して、講師の皆様、関係者の皆様のご協力に、とても感謝しております。当機構では皆様から寄せられたご意見・ご要望を踏まえ、カリキュラムの充実をはかるとともに、引き続き ITS セミナー（講演・討論会）を通じて、ITS に関わる人材育成支援、人材交流の円滑化に努めて参りたいと思います。今後ともよろしくお祈りいたします。

最新情報

フランスの道路課金

フランスのエコタックス情報

フランスでは、一般道（IC が設置されている無料道路）を対象とした道路課金（Ecotax：エコタックス）の計画があり、2013 年 4 月から段階的に開始する予定であった。しかし、車載器の配布の遅れなどによって、2013 年 10 月開始に延期となった。

ところが、ブルターニュ地域において、道路課金に対する反対運動が起き、2013 年 10 月に開始する予定であった Ecotax は無期延期となった。

2014 年の 6 月下旬、Ecotax を実施する対象道路を当初の 15,000km から 4,000km に縮小して開始する予定であることがフランス政府から発表された。

見直された Ecotax は下記の通り。

- ① 対象車両は 3.5t 以上の車両（ただし、農業車両と牛乳運搬車は無料）
- ② 対象道路はアルザス地方やパリ環状道路などの 4,000km（現時点では…）
4,000km を選択した理由は、3.5t 以上の車両が 1 日に 2,500 台走行する道路
- ③ 開始時期は 2015 年
- ④ 名称を Ecotax（環境税）から通行税に変更する予定

